Kwansei Gakuin University

近代フランス中西部地域における定期市の長期動向

―― 19世紀後葉から20世紀中葉にかけて ――

Long trends on retailing functions of regional Fairs and Markets in the Centre-ouest Region of Modern France

市 川 文 彦

This article analyses on the long trends of town & village Fairs and the fixed Markets in the Centre-ouest Region of Modern France from the 1870s to the 1950s.

In the Section 1, the features of new archival data on modern regional Fairs and Markets are examined. The Section 2&3 are focusing on long trends of locations, place number and operations of regional Fairs and Markets from the mid-nineteenth century. The Section 4 argues the case of regional Fairs in Vendée.

The Study shows and emphasises that 1)regional Fairs and Markets have been still regional main channels for retail trades until the 1950s, in the Centre-ouest, 2)the commercial activities and functions of regional Fairs have been sustained and developed, especially with national and regional railways network & newly-introduced transport system from the latter half of the nineteenth century France.

Fumihiko Ichikawa

JEL：N53, N93, Z13

キーワード：定期市・市場の地域小売流通機能、定期市の開催トレンド、近代フランス中西部地域

Key words：Retailing functions of regional Fairs and Markets, operation trends of regional Fairs, The Centre-ouest region of Modern France

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

0. はじめに

本稿の課題は、近代フランス中西部地域における定期市の開催状況を、主として県別データの検討をつうじ、19 世紀フランスの地域小売商業システムの一端を明らかにするところにある。

これまでに、既発表の別稿において、首府パリの中央卸売市場（Les Halles Centrales）と、その周囲の緒小売市場を対象に、近代フランスの生鮮品流通ネットワークを吟味した[1)]。そこで論じたように、19 世紀中葉フランスの首府において、また地方都市で、農村で、その主たる流通ネットワークを担っていたのは、定期市また公営常設市場、行商人であった。

これらのうち定期市、常設市場は、21 世紀初頭の現代フランスにおいても、スーパー・マーケット、ハイパー・マーケット等々の今日的流通チャンネルとともに、依然として、そのチャンネル特性を活かしつつ、多様な商業システムの一部として機能している。例えばパリについては、現在でも、魚類の場合、全市内消費量の 38%が、また野菜・果物の場合は、同じく 32%が、市中街頭の常設小売市場に拠って購入され、それはパリ市民の欠くべからざる流通経路として、機能し続けている[2)]。

近代フランスでの地域ごとの定期市、常設市場に関する研究史は、これまでに、首府あるいは特定の地方都市、幾つかの農村部について進められてきた[3)]。

本稿では、次節で改めて触れるように、近年、緒史料から抽出した市の開催データの復元と構築が進行中であり、また首府パリと同様に今日でも地域の日常生活を支える流通チャンネルとしての定期市、常設市場を擁するフランス中西部地域（Centre－ouest 地域：Deux－Sèvres 県 、Vendée 県、Vienne 県、Charante－Maritime 県、Charante－Inférieure 県）に注目し、その 19 世紀から 20 世紀にかけての長期小売流通状況を検討する。

なお、本稿での検討結果は、近代フランス中西部の小売流通チャンネルの長期動向に関する、市場史研究会・第 42 回全国大会（於　長崎県立大学・経済

1) 市川文彦 [6]；市川文彦 [7]
2) Mairie de Paris [4]；INSEE[3]
3) 詳細は、市川文彦 [6],「はじめに」参照。

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

学部、2004年10月2日）で発表された研究報告の一部である[4)]。

1. 基礎となる史資料、データについて

近代フランス中西部地域の定期市、常設市場の開催状況については、1990年代前後より、商業地理学、歴史地理学の研究者らによって、精力的にデータ復元、構築作業が重ねられてきた。データは、中西部5県の県文書館に収められている、県レヴェルまたは各県郡部レヴェルでの、商業関係の行政文書中の緒記録、また各年次の『県年鑑』（Annuaire départmental）から得られた。

さらに、19世紀中に開催された定期市に出入りしていた行商人たちが編纂し、持ち歩いていた、数種にわたる幾多の『年刊・市場案内』（Annuaire）、『市場読本』（Almanach）[5)]などを詳細に吟味することによって、データの再構築がなされた。

このようにして復元された定期市の開催状況データは、Jean SOUMAGNEを編者とするデータ資料としてまとめられた。そして、これを収め、その緒データを吟味した研究文献が公刊された[6)]。本稿では、この文献に収められた、編纂データを中心に検討を試みていく。

2. 定期市の開催場数動向

初めに中西部（Centre-ouest）5県における定期市の開催状況について、前節で触れた編纂データから跡付けてみる。

先ず5県全体の状況をまとめた表1から、幾つかの特徴的傾向が明らかになる。

下記の表1、図1も参照して、1877年から1988年までの110年間のうち、19世紀後葉から同世紀末期にかけての時期の、定期市の開催場数の変化に、主に注意して検討してみる。

---

4) 研究報告の際には、森本芳樹先生（九州大学）、岩井隆夫先生（長崎県立大学）から、貴重なコメントを戴いた。記して心より厚く御礼申し上げる。

5) 例えば、“L'Almanach du Bon Laboureur pour l'annee 1877”, 1877など。

6) SOUMAGNE, Jean [5].

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

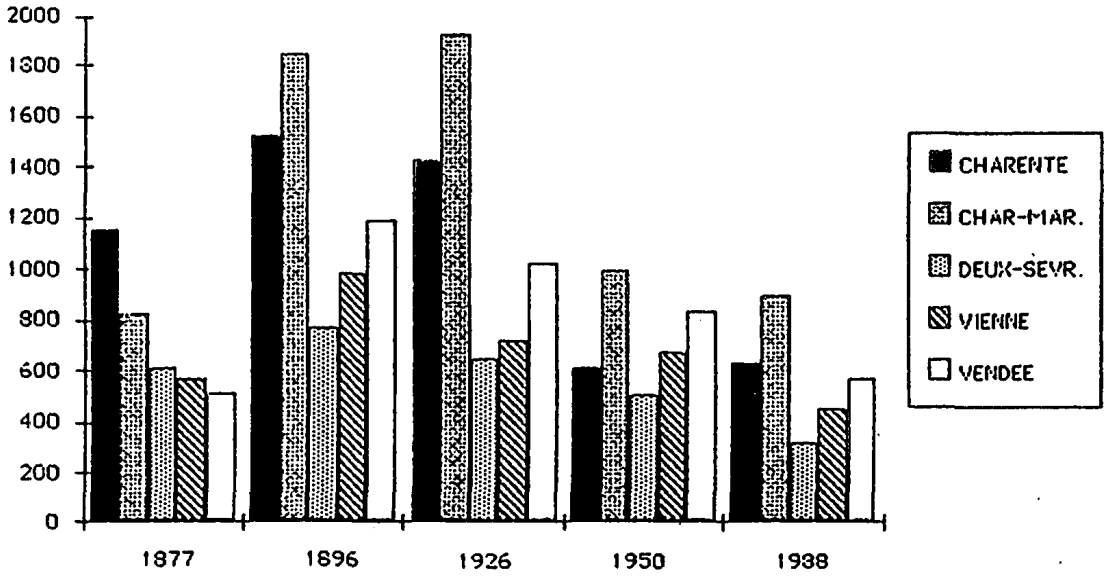
表 1：中西部全体の定期市年間開催日総数・開催場総数の変化（1877–1988 年）

	1877 年	1896 年	1926 年	1950 年	1988 年
開催日総数：	3676 日	6323 日	5749 日	3616 日	2857 日
	(58)	(100)	(90)	(57)	(45)
開催場総数：	———	795 ヶ所	631 ヶ所	———	———
		(100)	(79)		

＊表中の（　）内の数値：1896 年水準=100 として、指数化。

[出典] SOUMAGNE, Jean "Géographie du commerce de détail dans le Centre-ouest de la France" (1998), pp. 39-40, データ群より計算の上、作成.

図 1：中西部における定期市の県別年間開催日数の変化



[出典] SOUMAGNE, Jean　前掲書, p. 39.

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

(1)　1877－1896 年期：

この時期は、18 世紀末から 19 世紀中葉にかけてのいわゆる「農業革命」による農業生産性の上昇、また 19 世紀中葉以降の新たな交通システム体系の確立、特に鉄道全国幹線網及び地域幹線の整備の二点を享けて[7]、商品流通の促進、また定期市及び常設市場での、商品交換、商業活動の活発化が生じ、中西部全体の定期市開催日の総数は上記の表 1 から、また開催場の総数は各県の状況から、その増加が認められた[8]。とりわけ開催日については 1877 年から 1896 年にかけて、1877 年水準（延べ 3676 日）の 7 割増の開催日増加（2645 日増）が認められた。

さて、1896 年前後の時期には 5 県中 4 県で、定期市開催の市町村数がピークに達する。とりわけ Charante－Maritime 県、Vendée 県、Vienne 県での増加が目立った。ことに Vendée 県では顕著であり、同県内の開催場総数は、1877 年の 104 が、1896 年には 181 へと急増した[9]。

なお県別に、全市町村中に占める、定期市開催自治体数の比率も高まった。1896 年頃には、Vendée 県の 60%を筆頭に、Vienne 県=50%、Charante－Inférieure 県=45%、Deux－Sèvres 県、Charante－Maritime 県=それぞれ 30%となった[10]。

中西部全体で、定期市が開催されている市町村数は、1877 年には全体の 30%に留まっていたが、1896 年には全体の半数に達していた[11]。

(2)　1900－1926 年期：

この時期の特質点は、19 世紀末の先期と比較し、市場の開催場数の減少が認められたことである。ことに、19 世紀末に急増した地区での減少が目立った。

中西部全体では、1896 年の延べ 795 ヶ所が、1926 年には 631 ヶ所へと減少した。中西部地域の、この 1926 年水準は、域内全自治体数の 1/3 に相当す

7) CARON, François [1]；SOUMAGNE, Jean [5], chap 1.
8) FACQUES, Robert [2], Partie 3；SOUMAGNE, Jean [5], p. 40, データ群.
9) SOUMAGNE, Jean [5], p. 39, データ群.
10) SOUMAGNE, Jean [5], 同上
11) SOUMAGNE, Jean [5], 同上.

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

る。なお、この時期の動向も、先期と同様に、域内の県ごとで状況が相違していた。すなわち Charante－Inférieure 県では、他の 4 県と異なって、この時期も唯一、開催場数が微増していた。その理由は、同県の、相対的に良好な農業事情に拠っている。すなわち①第一次大戦時までの農村人口減少が軽度であったこと、②ブドウ畑のネアブラムシ禍からの回復が、他地方と比べ相対的に進んでいたこと、この二点から、同県内で新たな（農産物・日用品）流通が生じたことである[12)]。Vienne 県、Deux－Sèvres 県、Charante－Maritime 県の定期市の開催状況は、1877 年の水準に後退していた。

他の 4 県では、人口後退、第一次大戦による人口流出、鉄道駅設置などによる地域の経済拠点の変化が、定期市の再編をもたらした。

(3)　1927－1950 年期：

上記の、20 世紀初頭の先期の減少傾向が進んだ。1950 年において定期市を開催していた市町村は、域内全体の市町村総数の約 18%に留まった[13)]。

ただし、その後の 1988 年時点においては、定期市開催の市町村数は、域内の市町村数の約 16% を維持し、1950 年水準から大幅な後退があったわけではなかった。各県別に、県内全市町村に占める、定期市開催の市町村比率は、それぞれ Charante－Inférieure 県=12.8%、Deux－Sèvres 県=15.6%、Charante－Maritime 県=16.7%、Vendée 県=18.9%、及び Vienne 県=21%（1988 年）であった[14)]。

3.　定期市の開催日数動向

先に検討したように、表 1 から、当地域の開催日総数は、19 世紀後葉（1870 年代）から世紀末期（1890 年代）にかけて増加してピークを迎え、20 世紀に至り、第二次大戦後期には減少へ向かう。

このような長期にわたる日数面での開催状況の変化は、開催場数面での増減

12) SOUMAGNE, Jean [5], p. 39, データ群.
13) SOUMAGNE, Jean [5], 同上.
14) SOUMAGNE, Jean [5], 同上.

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

と近似し連動しているようにみえるが、詳細にわたって検討すると、両者の増減リズム間には、差違が認められる。19 世紀末以降の開催場数の減少度と比べて、開催日数の減少リズムは、先の表 1 及び各県内の状況からして、より緩やかであった。このような状況の一因は、後に検討するように、20 世紀初頭からの開催場数の減少に伴い、定期市機能の維持のため、むしろ開催日数の増加傾向が認められたことにも拠っている。

また開催日総数の変動も、域内での県間差も認められた。次の表 2 によると、各県別の増減リズムの差違が明らかになる。

表 2：中西部各県の定期市一ヶ所当りの平均開催日数（年間）

	1877 年	1896 年	1950 年
Deux－Sèvres 県	平均 5－6 日間	平均 7 日間	平均 11 日間
Vendée 県	同上	平均 6 日間	平均 10 日間
Vienne 県	同上	同上	平均　9 日間
Charante－Maritime 県	平均 9 日間	平均 12 日間	平均 11.5 日間
Charante－Inférieure 県	平均 5－6 日間	平均 8.5 日間	平均 13 日間

[出典] SOUMAGNE, Jean　前掲書, p. 40, データ群より作成.

中西部の各県とも、定期市の開催場数が減少し始める 20 世紀初頭以降に、開催日総数は、増加していく。これは、各県での開催場数の減少分を、開催日数の増加によって補完していく動きと評価できる。

4. Vendée 県の動向

最後に、主として 19 世紀前半期の、定期市の開催場総数、開催日総数について、より詳細なデータが得られた Vendée 県のケースを検討しておく。

この表 3 によると、19 世紀初頭の王政復古期から、後葉の 1870 年代に至るまでの期間に限ると、同県内では、開催場数も、開催日数も、共に大きな増減無く推移していたことが明らかとなる。この状況は、とりわけ 19 世紀中葉

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

表 3：Vendée 県での定期市開催状況　(1806－1877 年)

	1806 年	王政復古期 (1814－15 年)	1828 年	1833 年	1877 年
市の開催場数：	――	100－93 ヶ所	――	101 ヶ所	104 ヶ所
市の開催日数：	502 日	――	526 日	445 日	514 日

[出典] SOUMAGNE, Jean　前掲書, pp. 38-39, データ群より作成.

まで、つまり世紀前半期に関しては、前節までに確認された同県と中西部地域全体の、19 世紀後半期の開催場数、開催日数の大変動とは対照的な推移と、評価しうる。

結　び

本稿では、19 世紀フランス中西部地域で、生鮮品、日用品小売の重要な流通チャンネルの一つであった定期市の開催状況を、新たに復元された商業データによって検討した。

ここで明らかになった事実は、以下の三点である。

1) 中西部地域全体では、県ごとの差異を含みながらも、定期市の開催状況は、19 世紀末以降、その開催場数ベースで減少が認められたが、開催日数ベースでの減少は、第二次大戦後の 1950 年代以降からであった。
2) この状況は、中西部では、小売流通チャンネルとしての定期市の、19 世紀以前から担ってきた重要な機能が、20 世紀後半まで持続していたこと、また、1950 年代以降も小売流通チャンネルの一角に存在し続けて、機能していることを示している。
3) とりわけ常設市場、店舗等の、定期市以外の新たな流通チャンネルの形成とも結びついた、19 世紀中葉以降の鉄道幹線網の整備も、在来的な流通網の一つである定期市の消滅化へと作用したのではなかった事実も、注目に値する。中西部の定期市の開催動向は、鉄道幹線網の整

NII-Electronic Library Service

Kwansei Gakuin University

備が、むしろ一定期間、定期市の商業機能の強化を導く側面を有していたことを示すものであった。

今後の検討課題としては、より細かく、中西部5県の郡レヴェルでの、定期市、常設市場の開催状況を検討すること、また定期市、常設市場の開催状況、立地状況と中西部地域内の地理的条件、人口動態、行政中心地との関わり合い等を検討していくことである。改めて別稿で吟味していく予定である。

参考文献

[1] CARON, François "Histoire des Chemins de Fer en France" (1997)

[2] FACQUES, Robert "Les halles et marchés alimentaires de Paris" (1911)

[3] INSEE "Consommation et lieux d'achat des produits alimentaires en 1991" (1993)

[4] Mairie de Paris "Les Marchés de Paris," (1991)

[5] SOUMAGNE, Jean "Géographie du commerce de détail dans le Centre-ouest de la France" (1998)

[6] 市川文彦「パリ中央市場の成立と近代フランスの流通システム —— 第2帝政期から20世紀初頭にかけて ——」『市場史研究』第9号（1991）

[7] ————「パリの〈胃袋〉とその周辺 —— 帝都における食糧流通システムの担い手 ——」『北陸都市史学会雑誌』第4号（1995）

NII-Electronic Library Service